

各 関 係 機 関 団 体 の 長 } 殿  
各 病 害 虫 防 除 員 }

福岡県農林業総合試験場長  
(福岡県病害虫防除所)

令和元年度病害虫発生予報第 3 号 (6 月) について

このことについて、病害虫発生予報第 3 号を発表したので送付します。

予報第 3 号

チョウ目害虫の発生動向にご注意を！

今年のフェロモントラップ調査によると、ハスモンヨトウやオオタバコガ、茶のハマキムシ類の発生が平年より早い傾向にあります。向こう 1 カ月の気象予報では、平年に比べて気温が高いとされていますので、チョウ目害虫の発生は例年より早く、多発することが予想されます。

病害虫防除所のホームページでは、各種病害虫の発生状況を随時更新していますので、発生状況の把握や防除の参考にご活用下さい。



ハスモンヨトウ成虫



オオタバコガ成虫



チャノコカクモンハマキ成虫

<予想される向こう 1 か月の天候 (令和元年 6 月 1 日～令和元年 6 月 3 0 日) >

暖かい空気に覆われやすく、向こう 1 か月の気温は高いでしょう。特に、期間の前半は気温がかなり高くなる可能性があります。

向こう 1 か月の気温・降水量・日照時間 (数値は予想される出現確率)

	平均気温	降水量	日照時間
九州北部地方	低10 並20 高70% 高い 見込み	少30 並40 多30% ほぼ平年並 の見込み	少30 並40 多30% ほぼ平年並 の見込み

(福岡管区気象台 令和元年 5 月 3 0 日発表抜粋)

6月における主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

作物名	病害虫名	現況 (発生量)	6月の発生予報 (発生量)	
		平年比	平年比	前年比
カンキツ	そうか病 ミカンハダニ	並	並	並
		少	少	多
ナシ	黒星病 ハダニ類	やや少	やや少	やや少
		やや多	やや多	並
カキ	炭疽病 フジコナカイガラムシ ハマキムシ類	少	少	やや少
		やや少	並	やや多
		並	やや多	やや多
果樹共通	チャバネアオカメムシ	少	—*	少
茶	炭疽病 チャノココクモンハマキ	並	やや少	多
		多	多	多

注1) 予報の発生量は平年（福岡県の過去10年間）及び参考として前年との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。

\* 果樹共通・チャバネアオカメムシの発生量（現況）平年比は年次変動が大きいため—としています。

注2) 予報の根拠には、巡回調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生状況、気象予報からみた病害虫の発生条件を必要に応じて記載しています。

それぞれの条件は、少発生（－）、やや少発生（－～±）、並発生（±）、やや多発生（±～＋）、多発生（＋）として示し、＋－を総合的に判断して発生量を予想しています。

## 【果樹：かんきつ】

### 1 そうか病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった（±）。

発病葉率 0.3%  
(平年 0.2%、前年 0.9%)

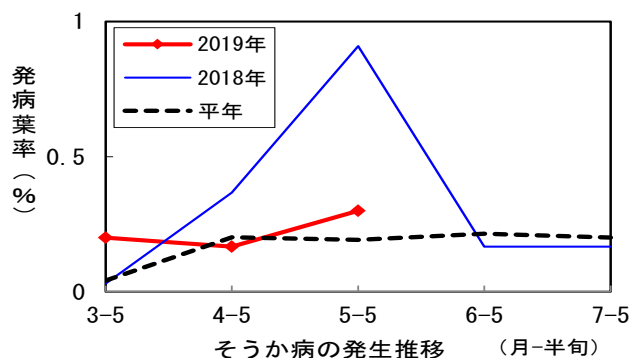
発生ほ場率 20.0%  
(平年 13.6%、前年 18.2%)

イ 向こう1か月の気象予報では、並発生の条件となっている（±）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 伝染源となる罹病葉は園外に持ち出し、幼果期の防除を徹底する。

イ 農薬の使用及び散布等にあたっては、p 7の内容を確認の上、適切に実施する（以下の病害虫についても同様）。



### 2 ミカンハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年より少・前年より多

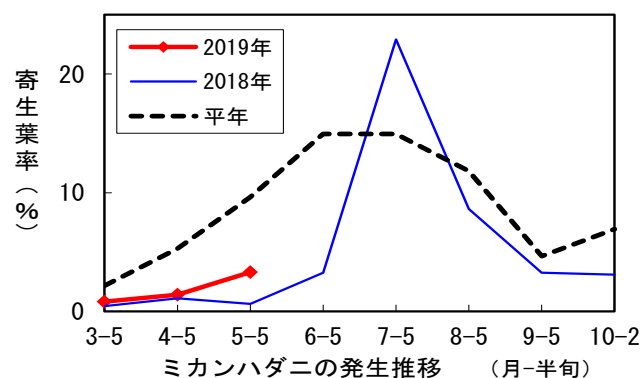
(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった（－）。

発病葉率 3.3%  
(平年 9.6%、前年 0.6%)

発生ほ場率 50.0%  
(平年 48.0%、前年 27.3%)

イ 向こう1か月の気象予報では、やや多発生の条件となっている（±～＋）。



(3) 防除上注意すべき事項

- ア 薬剤防除に当たっては、薬液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。  
また、薬剤感受性の低下をさけるため、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

【果樹：なし】

1 黒星病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや少

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった（-～±）。

発病葉率 1.1%（平年 1.2%、前年 1.2%）

発生ほ場率 54.5%（平年 57.6%、前年 81.8%）

発病果率 0.5%（平年 1.9%、前年 1.0%）

発生ほ場率 45.5%（平年 49.9%、前年 72.7%）

イ 向こう1か月の気象予報では、並発生の条件となっている（±）。

(3) 防除上注意すべき事項

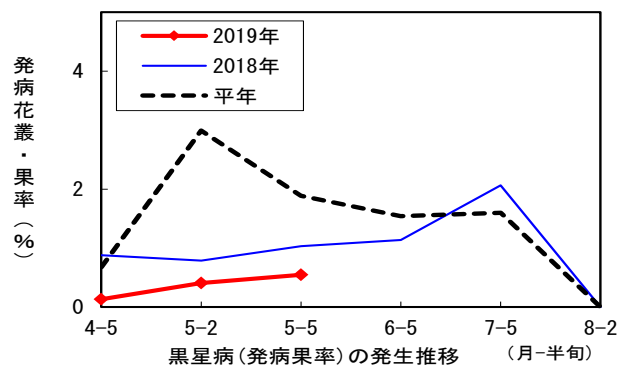
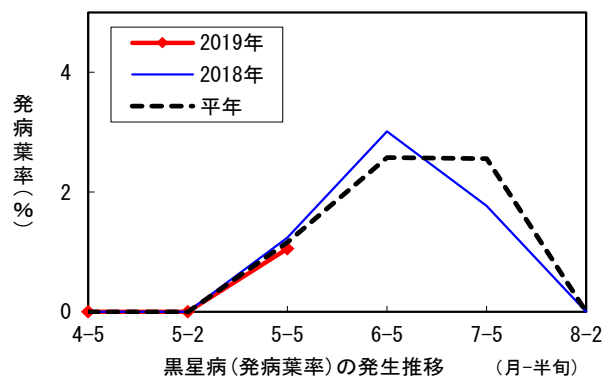
ア 伝染源となる罹病葉や罹病果は、見つけ次第園外に持ち出し処分する。

イ 薬剤感受性の低下をさけるため、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

ウ 薬剤耐性菌の発生リスク低減のため、DMI剤の使用回数は年間で3回以内、QoI剤は2回以内にとどめる。

特に、DMI剤を用いる場合は、保護殺菌剤と混用することにより防除効果の維持が期待できる。

エ 「幸水」の果実は開花60日後（6月上旬）以降、再び感染しやすくなるため、果実への感染防止に努める。



2 ハダニ類

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多・前年並

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや多かった（±～+）。

発病葉率 0.5%  
（平年 0.3%、前年 1.3%）

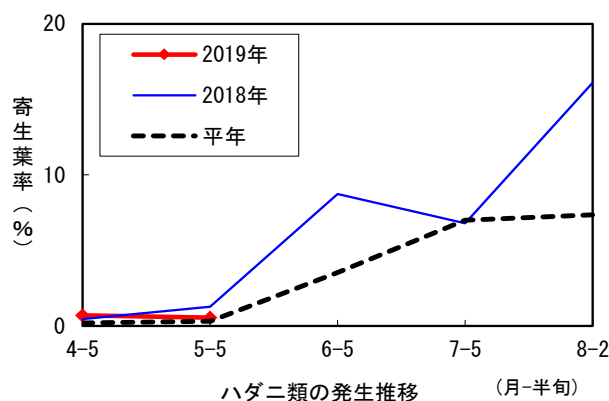
発生ほ場率 36.4%  
（平年 9.5%、前年 18.2%）

イ 向こう1か月の気象予報では、やや多発生の条件となっている（±～+）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤防除に当たっては、薬液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。

また、薬剤感受性の低下をさけるため、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



## 【果樹：かき】

### 1 炭疽病

#### (1) 予報の内容

発生量：平年より少、前年よりやや少

#### (2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった（－）。

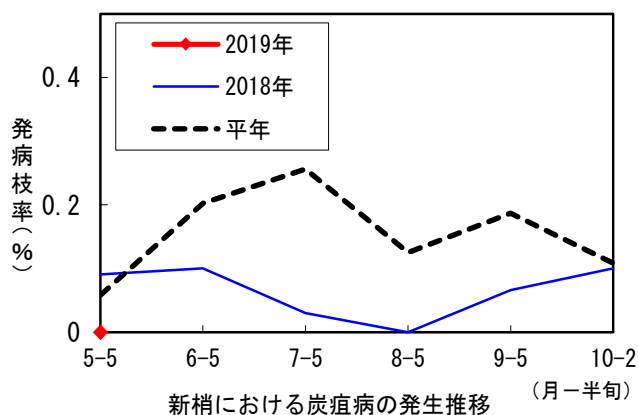
発病枝率 0%  
(平年 0.06%、前年 0.09%)

発生ほ場率 0%  
(平年 8.4%、前年 16.7%)

イ 向こう1か月の気象予報では、並発生の条件となっている（±）。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 伝染源となる罹病枝や罹病果は、見つけ次第園外に持ち出し処分する。



### 2 フジコナカイガラムシ

#### (1) 予報の内容

発生量：平年並・前年よりやや多

#### (2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった（－～±）。

寄生枝率 0.8%  
(平年 1.7%、前年 0.2%)

発生ほ場率 54.5%  
(平年 46.0%、前年 33.3%)

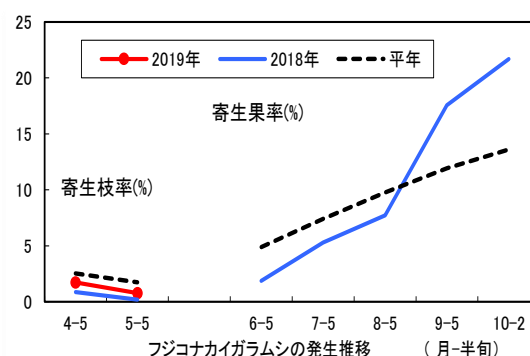
イ 向こう1か月の気象予報では、やや多発生の条件となっている（±～+）。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 樹上での第1世代幼虫の孵化時期を確認し、約10日間隔で2回防除を実施する。

イ 薬剤がかかりにくい部位に寄生しているので、散布むらがないよう十分量の薬量を丁寧に散布する。

ウ 天敵への影響が比較的少ない薬剤で防除する



### 3 ハマキムシ類

#### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多

#### (2) 予報の根拠

ア 4月1半旬～5月4半旬までのフェロモントラップによる誘殺虫数は、平年並であった（±）。  
<調査地点はうきは市、平年値は2016～18年の平均>

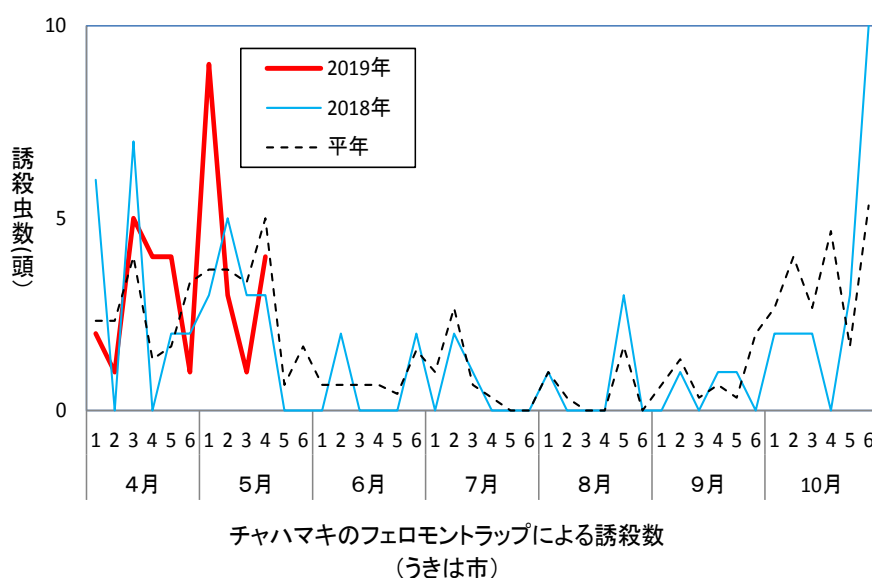
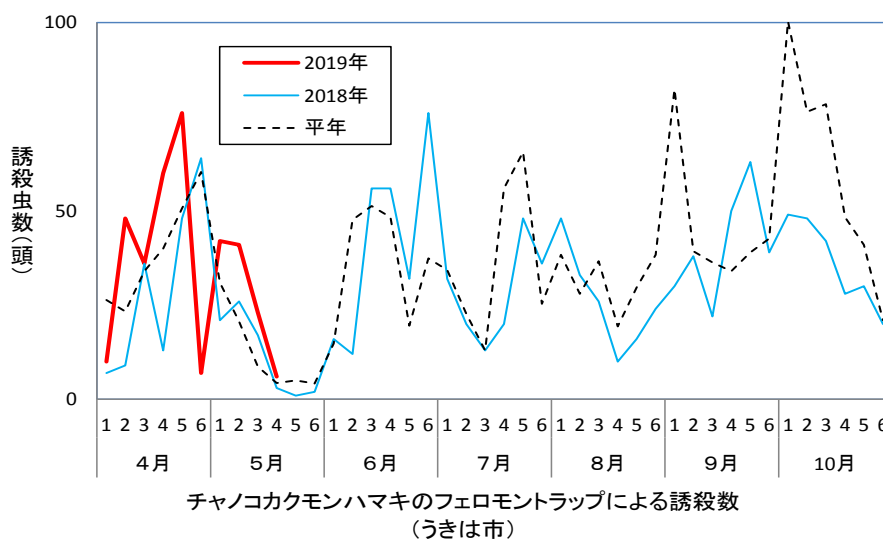
誘殺数 チャノコカクモンハマキ 266頭 (平年 300頭、前年 244頭)  
チャハマキ 29頭 (平年 31頭、前年 34頭)

イ 向こう1か月の気象予報では、やや多発生の条件となっている（±～+）。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 幼虫は葉と葉が重なった部分や、へたと果実の間に多く潜んでいるため、散布むらがないよう十分量の薬量を丁寧に散布する。

イ 発生動向に注意し、適期防除に努める（トピックス参照）。



### 【果樹共通：チャバネアオカメムシ】

#### (1) 予報の内容

発生量：前年より少、2017年並

#### (2) 予報の根拠

ア チャバネアオカメムシの1㎡当たりの越冬量は平均 0.8頭（前年 3.8頭、2017年 0.9頭）と、前年より少なく、2017年並であった<2017年は越冬量が、19年と同程度>（±）。

イ 4月1半旬～5月4半旬までのフェロモントラップによる誘殺虫数は、前年より少なかった（－）。

誘殺数 53頭（前年 576頭、2017年 284頭）（調査地点：筑紫野市）

10頭（前年 134頭、2017年 69頭）（調査地点：宗像市）

293頭（前年 165頭、2017年 21頭）（調査地点：うきは市）

8頭（前年 88頭、2017年 12頭）（調査地点：八女市）

ウ 4月1半旬～5月4半旬までの予察灯による誘殺虫数は、前年より少なかった（－）。

誘殺数 48頭（前年 712頭、2017年 87頭）（調査地点：筑紫野市）

16頭（前年 302頭、2017年 14頭）（調査地点：久留米市）

1頭（前年 15頭、2017年 0頭）（調査地点：うきは市）

8頭（前年 643頭、2017年 11頭）（調査地点：飯塚市）

1頭（前年 4頭、2017年 1頭）（調査地点：朝倉市）\*5月2半旬まで

### (3) 防除上注意すべき事項

- ア カメムシ類は夜温が高くなると活動が活発になるので、気温の推移や、地域の予察灯の誘殺状況を確認する。
- イ モモ、スモモ、ウメ、ナシ、カンキツ等では、園内の発生状況の把握に努め発生に応じて防除を行う。
- ウ 果樹カメムシ類の飛来時期は地域により異なる（越冬量が多かった地域は注意が必要）。また、飛来・被害発生状況は、同一園内でも偏りがあるため、園内全体を注意して見回り、飛来を認めたら直ちに防除する。
- エ 果樹カメムシ類は広範囲に移動するため、薬剤散布は広域一斉防除の効果が高い。
- オ 薬剤防除の際は、収穫前日数等農薬使用基準を遵守する。
- カ 降雨があると薬剤の残効が短くなるので、散布間隔に注意する。
- キ 今後の発生状況については、病害虫防除所ホームページ病害虫の発生状況を参照する。  
<<http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/doukou/hassei.html>>

## 【茶】

### 1 炭疽病

#### (1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少・前年より多

#### (2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、発生量は平年並だった(±)。

発病葉数 0.9葉(平年0.8葉、前年0葉)

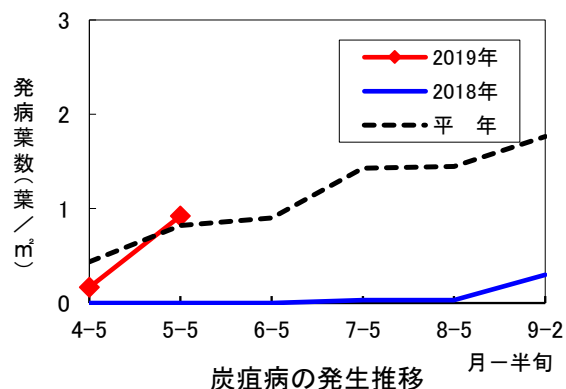
イ 向こう1か月の気象予報では、やや少発生の条件となっている(－～±)。

#### (3) 防除上の注意

ア 一番茶摘採後の残葉での発生に注意し、二番茶の萌芽から1葉期までに防除を行う。

イ 雨滴により胞子が飛散伝搬するので、できる限り降雨前日までに防除を実施する。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



### 2 チャノコカクモンハマキ

#### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年より多

#### (2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、発生量は平年より多かった(+)

1㎡当り巻葉数 0.1枚(平年・前年0枚)

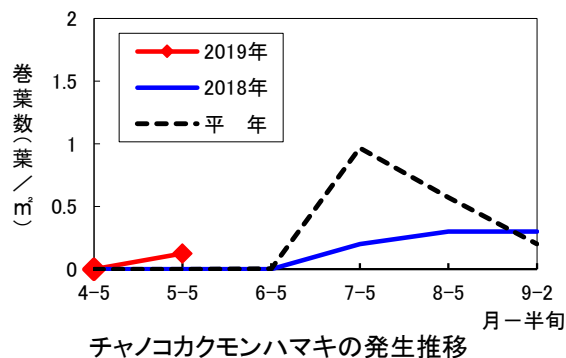
イ 向こう1か月の気象予報では、多発生の条件となっている(+)

#### (3) 防除上の注意

ア 第1世代成虫の発蛾最盛期については、天候によって変動するが、例年6月中～下旬頃である。

ほ場での成虫の発生状況をよく観察し、成虫が最も多いときから7日後を目安に防除を行う。

イ 巻葉後は防除効果が劣るため、巻葉が見られたら直ちに防除を行う。





## 【茶：その他の病害虫】

病害虫名	現況 (発生量)	6月の発生予報 (発生量)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
もち病	少	少	少	・一番茶摘採後の残葉での発生に注意し、2番茶の萌芽から1葉期までに防除を行う。
カンザワハダニ	少	少	少	・発生状況をよく観察し、寄生葉率が2%以上である場合は、効果の高い薬剤で速やかに防除を行う。 ・薬剤は、寄生の多い裾葉・葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。 ・同一系統薬剤の連続散布を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。
チャノキイロ アザミウマ	少	やや少	並	・発生状況をよく観察し、たたき落とし（B5判上）で10頭以上発生している場合は防除を行う。 ・二番茶の萌芽から開葉期を重点に防除する。
チャノミドリ ヒメヨコバイ	並	並	並	・発生状況をよく観察し、たたき落とし（B5判上）で4頭以上発生している場合は防除を行う。 ・二番茶の萌芽から開葉期を重点に防除する。
チャトゲ コナジラミ	並	並	並	・チャトゲコナジラミは年3～4回発生し、防除適期は若齢幼虫発生期である。 ・第2世代幼虫の防除適期は例年7月下旬～8月始めであるが、天候によって変動するので、発生状況をよく観察し、親世代成虫の発生が収まった頃に適切な防除を行う。

## 農薬の安全・適正使用、飛散防止対策の徹底を！

福岡県では、農薬の安全かつ適正な使用及び保管管理、使用現場における周辺への配慮を周知徹底するとともに、農薬による事故防止を目的として、安全使用講習会の開催や啓発チラシの配布等を関係機関、団体と一体となって取り組んでいます。

使用者の安全はもちろん、人畜・隣接作物・河川等への配慮について、ご指導をお願いします。

### 1 農薬適正使用の徹底

○適用作物、使用量や濃度、使用時期、総使用回数などが記載されたラベルをよく確認し、使用基準を遵守する。

※農薬の種類によっては、登録の内容がメーカーによって異なるので、ラベルをよく確認する。

(例：スミチオン水和剤40は、メーカーによって適用作物名や適用病害虫名が異なる)

○有効期限切れの農薬は使用せずに、産業廃棄物として処分する。

### 2 飛散防止対策の徹底

○風の弱い時に散布する。

○風向、散布方向、散布時間、散布圧などに留意する。

○飛散しにくい農薬（剤型）や飛散が少ないドリフト低減ノズルを使用する。

○散布ほ場周辺の収穫前の作物には十分注意する。

### 3 保護具の着用

○農薬の散布時には、ラベルの注意・警告マークをよく確認し、マスク、保護メガネ、ゴム手袋等を着用する。

### 4 農薬の散布後は、必ず散布器具を洗浄

○噴霧器、薬液タンク、ホースなどの散布器具を十分に洗浄する。

### 5 防除履歴の記帳

○農薬の散布が終わったら、作物名、ほ場の場所、使用年月日、薬剤名、使用濃度、使用量等を正確に記帳する。

### 6 空容器の処分

○空容器は、産業廃棄物処理業者に委託するなど、適切な処分を行う。

また、野焼きは法令で禁止されているので行わない。

福岡県病害虫防除所ではQRコードを作成しています。

携帯電話のQRコードリーダーでスキャンして頂くと、病害虫防除所ホームページに簡単にアクセスできますので、御利用下さい。



最新の病害虫発生状況